

令和2年5月15日

各位

トモニホールディングスグループの令和2年3月期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和2年3月期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：吉岡宏美）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：本田典孝）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和2年3月期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）連結業績

当期における損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金及び国債等債券売却益が減少したこと等により、前期比2,253百万円減少して71,033百万円となりました。経常費用は、株式等売却損及び株式等償却が増加したことに加え、令和2年1月の徳島銀行と大正銀行の合併に伴う一時的な経費としてシステム関連経費等2,070百万円を計上したこと等により、前期比2,582百万円増加して59,655百万円となりました。その結果、経常利益は前期比4,835百万円減少して11,378百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比2,027百万円減少して8,136百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は前期末比939億円増加して3兆9,931億円、純資産残高は前期末比68億円減少して2,200億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は前期末比478億円増加して3兆5,994億円、貸出金残高は前期末比1,066億円増加して2兆9,067億円、有価証券残高は前期末比500億円減少して6,420億円となりました。

		令和2年3月期	
			前期比
損益	経常収益	71,033百万円	△2,253百万円
	経常費用	59,655百万円	2,582百万円
	経常利益	11,378百万円	△4,835百万円
	親会社株主に帰属する当期純利益	8,136百万円	△2,027百万円
		令和2年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	39,931億円	939億円
	純資産	2,200億円	△68億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	35,994億円	478億円
	貸出金	29,067億円	1,066億円
	有価証券	6,420億円	△500億円
	自己資本比率（国内基準）	8.52%	△0.20%

(2) 令和3年3月期第2四半期累計期間（令和2年4月1日～令和2年9月30日）及び通期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）連結業績予想

次期（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）におきましては、当期に計上した徳島銀行と大正銀行の合併に伴う一時的な経費の計上がなくなる一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響等を勘案し、有価証券関係損益及び与信関連費用の計上を保守的に見積っていること等により、以下の連結業績を予想しております。

① 令和3年3月期第2四半期累計期間

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益
令和3年3月期 第2四半期累計期間	5,700	3,750

② 令和3年3月期通期

（単位：百万円）

	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
令和3年3月期 通	11,150	7,300

## 2. 徳島大正銀行

### (1) 令和2年3月期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）単体業績

当期における損益状況は、決算ベースでは、経常収益は29,141百万円、コア業務粗利益は23,133百万円となりました。徳島銀行と大正銀行が合併した第4四半期におきまして、合併に伴うシステム関連経費等として2,070百万円計上したこと等により、コア業務純益は6,571百万円、経常利益は4,917百万円、当期純利益は3,432百万円となりました。また、合算ベースでは、経常収益は、有価証券利息配当金及び国債等債券売却益の減少等により、前期比1,600百万円減少して36,396百万円となりました。また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前期比241百万円減少して28,956百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、上記要因により経費が増加したこと等により、前期比2,091百万円減少して7,687百万円となりました。経常利益は、与信関連費用が増加したこと等により、前期比2,931百万円減少して6,577百万円となり、当期純利益は、前期比868百万円減少して4,634百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加しましたが、金融機関預金が減少したこと等から前期末比214億円減少して2兆85億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前期末比316億円減少して2兆1,214億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前期末比817億円増加して1兆6,301億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は7.81%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前期末比2,818百万円減少して23,015百万円、総与信に占める割合は1.39%となりました。

		令和2年3月期 決算ベース	令和2年3月期 合算ベース	前期比
損益	経常収益	29,141百万円	36,396百万円	△1,600百万円
	コア業務粗利益	23,133百万円	28,956百万円	△241百万円
	コア業務純益	6,571百万円	7,687百万円	△2,091百万円
	経常利益	4,917百万円	6,577百万円	△2,931百万円
	当期純利益	3,432百万円	4,634百万円	△868百万円
	与信関連費用	2,175百万円	1,903百万円	835百万円
		令和2年3月期末	前期末比	
主要勘定残高・ 諸比率	総資産	22,384億円	285億円	
	預金等（譲渡性預金を含む）	20,085億円	△214億円	
	総預り資産	21,214億円	△316億円	
	貸出金	16,301億円	817億円	
	有価証券	3,623億円	△446億円	
	自己資本比率（国内基準）	7.81%	△0.72%	
不良債権	金融再生法開示債権額	23,015百万円	△2,818百万円	
	総与信に占める割合	1.39%	△0.25%	

(注) 1. 決算ベースの損益は、令和2年1月以降の徳島大正銀行の計数と、平成31年4月から令和元年12月までの徳島銀行の計数を合算しております。

2. 合算ベースの損益は、令和2年1月以降の徳島大正銀行の計数と、平成31年4月から令和元年12月までの徳島銀行及び大正銀行の計数を単純合算しております。

3. 主要勘定残高・諸比率（自己資本比率を除く。）及び不良債権の前期末比の計数は、平成31年3月末における徳島銀行及び大正銀行の計数を単純合算したものと比較した計数を記載しております。

4. 自己資本比率の前期末比の計数は、平成31年3月における徳島銀行の計数と比較した計数を記載しております。

### (2) 令和3年3月期第2四半期累計期間（令和2年4月1日～令和2年9月30日）及び通期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）単体業績予想

#### ① 令和3年3月期第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	経常利益	中間純利益
令和3年3月期 第2四半期累計期間	3,550	2,450

#### ② 令和3年3月期通期

(単位：百万円)

	経常利益	当期純利益
令和3年3月期 通	7,400	5,150

### 3. 香川銀行

#### (1) 令和2年3月期（平成31年4月1日～令和2年3月31日）単体業績

当期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び国債等債券売却益が増加したこと等により、前期比146百万円増加して27,871百万円となりました。また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前期比537百万円増加して21,866百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前期比164百万円増加して6,896百万円となりました。経常利益は、株式等関係損益が減少したこと等により、前期比2,425百万円減少して3,858百万円、当期純利益は前期比1,671百万円減少して2,599百万円となりました。

当期末における主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前期末比485億円増加して1兆5,953億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前期末比429億円増加して1兆7,300億円となりました。また、貸出金残高は、積極的な営業活動により中小企業・個人向け貸出等の取組みを進めたこと等により、前期末比264億円増加して1兆2,863億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.21%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りましたが、前期末比2,228百万円増加して25,994百万円、総与信に占める割合は1.99%となりました。

		令和2年3月期	
			前期比
損益	経常収益	27,871百万円	146百万円
	コア業務粗利益	21,866百万円	537百万円
	コア業務純益	6,896百万円	164百万円
	経常利益	3,858百万円	△2,425百万円
	当期純利益	2,599百万円	△1,671百万円
	与信関連費用	497百万円	△752百万円
		令和2年3月期末	
			前期末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	17,549億円	472億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	15,953億円	485億円
	総預り資産	17,300億円	429億円
	貸出金	12,863億円	264億円
	有価証券	2,777億円	△52億円
	自己資本比率（国内基準）	9.21%	△0.34%
不良債権	金融再生法開示債権額	25,994百万円	2,228百万円
	総与信に占める割合	1.99%	0.13%

#### (2) 令和3年3月期第2四半期累計期間（令和2年4月1日～令和2年9月30日）及び通期（令和2年4月1日～令和3年3月31日）単体業績予想

##### ① 令和3年3月期第2四半期累計期間

（単位：百万円）

	経常利益	中間純利益
令和3年3月期 第2四半期累計期間	2,700	1,950

##### ② 令和3年3月期通期

（単位：百万円）

	経常利益	当期純利益
令和3年3月期 通	4,100	2,600

以上

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部  
株式会社徳島大正銀行 企画部  
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102

TEL：088-656-1118

TEL：087-812-5132